

てんによ
こたえ 天女のはごろも

はってん
発展 ②

てんによ
天女のはごろも (日本のむかし話)

むかし、ある海べに、うつくしい天女てんによがおりてきました。

天女てんによは、はごろもを松まつの木にかけて、水あびをはじめました。

それを見ついたりようしは、あまりのうつくしさに、はごろもをもちかえろうとしました。

「それがないと、天にかえれません。どうか、かえしてください。」

天女てんによがなきながらたのむので、りようしはかわいそうになりました。

りようしがはごろもをかえすと、天女てんによはおれいにうつくしいまいをまいながら、空高くのぼっていききました。

1 天女てんによは、はごろもを何にかけましたか。

ま
つ

の木

2 天女てんによが「かえしてください」とたのんだのは、どうしてですか。

はごろもがないと、天にかえれないから。

3 天女てんによがなきながらたのむのを見て、りようしはどんな気持ちになりましたか。

ア うれしくなった。

イ かわいそうになった。

ウ おこった。

4 はごろもをかえしてもらった天女てんによは、どうしましたか。

まいをまいながら、空高くのぼっていった。